

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

前 奏

奏 楽 大 日 南 苗 香 姉 妹

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 7:1 父の神よ夜は去りて

父の神よ夜は去りて 新たなる朝となりぬ

我らは今 御前に出でて 御名をあがむ アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 47:1 主よ我をば捕えたまえ

主よわれをば捕えたまえ さらば我がたまは解き放たれん

我がやいばを砕きたまえ さらば我があだに打ち勝つをえん アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 5 使 徒 信 条

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。われは、その独り子、われらの主イエス・キリストを信ず。主は、聖霊によりて宿り、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪の赦し、からだのよみがえり、とこしえの命を信ず。アーメン。

献 金 (黒) 教会活動 (赤) ふじみ野社会福祉協議会 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

《 子どもプログラム 担当：根岸めぐみ姉妹・門脇陽子長老 》

聖書朗読 ルカによる福音書8章22～25節 (新約聖書119頁)

説教・祈祷 「波風に命じるイエス」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 47:2 我が心は定かならず

我が心は定かならず 吹く風のごとく 絶えず変わる

主よ御手もて引かせたまえ さらばなおぎ道 踏みゆくをえん アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 64 み恵みあふるる

み恵みあふるる 父・御子・御霊の

ひとりの御神に 御栄え尽きざれ アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 門脇献一長老 (司会・受付 次週：古澤兵庫長老)

日 受付 1階：那珂信之執事 2階：加藤良明執事 / 動画：門脇光生兄弟 録音：森永翔馬
八週 受付 1階：若月学執事 2階：加藤良明執事 / 動画：番場駿也兄弟 録音：大日南信也執事

I マルコとマタイにはガリラヤ湖の嵐の話が二つある

一つはきょうのお話です。もう一つは、イエス様が湖の上を歩いて来られたので、ペトロが自分も歩いてイエス様の所へ行かせてくださいと願ったお話です。両方に共通しているのは、弟子たちの不信仰をイエス様が指摘なさったことです。ですから、きょうのメッセージは、今日の弟子である私たちの不信仰も指摘しておられることにあります。

さて、ガリラヤ湖には、時々、吹き下ろす突風が発生します。しかし、舟の操縦や海上気象の話だったら、弟子たちの中には専門家がいます。ガリラヤ湖の漁師グループ＝ペトロとアンデレ、ヤコブとヨハネです。ですから、24節の「先生、先生、おぼれそうです」と言った弟子たちのセリフは、専門家の弟子たちでもどうにもならない激しい嵐だったことを表しています。

ところがイエス様は眠っておられました！ 本当に寝ているのであれば、よほど疲れていたのでしょう。それほどメシア職は重労働でした。しかし演技であれば、弟子たちの信仰を教育しようと、舞台設定が出来上がるのを待っておられることになります。

電車やバスで寝るのは気持ちの良いことですが、遭難しそうな舟で眠っているとは驚くべきことです。豪華客船ではない小舟です。書いてあるままに受け取れば「眠ってしまわれた」のです。

マルコによれば「艫の方で枕をして眠っておられた」とあります。「艫」、この漢字は「とも」と読んだら後ろの方、「へさき」と読んだら前の方だそうです。へさきの方では弟子たちが悪戦苦闘し、ともの方ではイエス様が眠っておられたのでした。

II 起き上がった主イエス

さて、そもそも、舟はどこに向かっていたのかと言うと、「湖の向こう岸に渡ろう」とイエス様が言われたので、ガリラヤ湖の「向こう岸」です。どちらから見て「向こう岸」かと言うと、ユダヤ人が住む西側から見て「向こう岸」なので東側ですが、そこは異邦人が住む所でした。ルカが次のエピソードを書いた「ゲラサ人の地方」です。そこでは豚を飼っているのに、豚肉を食べないユダヤ人からしたら、確かに異邦人の地です。しかし、そこにも行こうとされたので、イエス様の福音宣教は異邦人を含んでいました。

ガリラヤ湖は霞ヶ浦くらいの大きさの湖です。ものすごく大きい湖ではないですが、地元に住んでいる人たちからすれば、けっこう大きい湖でしょう。ユダヤ人の漁師であるペトロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネたちは、向こう岸の方まで漁をしに行くことは、ふだん、ないでしょう。だから、ユダヤ人の漁師がふだん行き慣れている場所ではなかった可能性もあります。次のエピソードで、豚の大群が崖からなだれ落ちるので、崖から「突風が湖に吹き降ろして来て」、弟子たちは水をかぶって危なくなっただけでしょう。

「先生、先生、おぼれそうです」。弟子たちは、イエス様に「助けてください」と願いました。舟をコントロールすることは漁師たちがいるので、やれることはやりました。だから漁師たちがいても「おぼれそうです！」という状況です。もうプロの人間でもどうにもならない状況だから、人間以上のことができるお方に頼りました。イエス様をナザレの

大工だと思っていたら、頼らないでしょう。癒しの奇跡を見てきたので、少なくとも、モーセやエリヤのように神の奇跡ができる預言者だと思って頼りました。この状況でもイエス様なら神業ができるのではないかという期待です。

眠りを妨げられたイエス様は弟子たちを叱るかと思ったら、なんと「風と荒波とをお叱りに」なりました。すると、風と荒波は「静まって凧になった」のです。風と波が人格をもって悪さをしているわけではありません。やはり、イエスが言葉でわざを行なうことができる方であることを証明しているのです。すなわち、天地創造の神と同じようなことができるなんて、「いったい、この方はどなたなのだろう。命じれば風も波も従うではないか」と、弟子たちの心に大事な問いを起こしたのです。この方は誰か。これが、このあと弟子たちのキリスト告白につながる布石です。

Ⅲ あなたがたの信仰はどこにあるのか

さて、弟子たちへのお叱りは、25節「あなたがたの信仰はどこにあるのか」です。ここはマタイから補足した方が分かりやすいと言えます。マタイでは「なぜ怖がるのか。信仰の薄い者たちよ。」です。マタイ福音書は、イエスは「神が共におられる＝インマヌエル」預言の成就として語り始めました。だから、イエス様のお叱りは、まことにその通り、神が共におられるのに「なぜ怖がるのか」です。

弟子たちは、イエス様に頼って、イエス様に従いたい弟子ですから、イエス様は「信仰の薄い者たちよ」と叱ってくださいます。決して、信仰がないとは言われません。だから、ルカ福音書の「あなたがたの信仰はどこにあるのか」という記録の仕方も、信仰がないという解釈にはならないのです。

現代の弟子たちも、どんなに小さく弱い信仰であっても、その薄い信仰を守ってくださいます。信仰がなくならないように悪魔から守る力のある方、それがメシアです。人の心に不信仰を植えつけるのが悪霊の仕事です。それを主イエスは追い出す力があるのです。

Ⅳ 主イエスに従う信仰

主イエスに従う道は十字架の道です。当面ついて行けませんが、あとで付いて行くようになります。主イエスに従う道は復活の道です。死を克服する永遠の命への道です。だから、主イエスに従う道は、苦しみののち希望を見いだす道です。主イエスに従う者の道は安易な道ではありません。しかし、「わたしに従いなさい」との命令に従って信じる者には「信仰の薄い者よ」と呼びかけながら、守り導いてくださいます。決して信仰がないとはいわれません。

生涯、荒波にもまれるような信仰であっても、信仰を守り通してくださるのです。神我らと共にいます＝インマヌエルであるイエス・キリストに信頼して従いましょう。